

1. 経営方針

「身近で親しまれるJA」

当JAは、「組合員・地域住民との関係強化」、「地域農業の振興」、「経営基盤の強化」を基本方針に中期計画を策定し、組合員及び地域の皆さまから「身近で親しまれるJA」として、一層の信頼を得られるよう取り組んでいます。

□基本方針

1. 「組合員・地域住民との関係強化」

「ふれあい訪問活動」を充実強化し、利用者のニーズにお応えするとともに、「地域の活性化」に取り組めます。

特に、准組合員を「農業や地域経済の発展を農業者と共に支えるパートナー」とし、関係強化を図ります。

2. 「地域農業の振興」

「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」を図るため、新たな「地域農業ビジョン」に取り組めます。

3. 「経営基盤の強化」

事業・組織の改革や内部留保による自己資本の充実に努め、経営の健全性確保のため、内部管理態勢の強化を図ります。

2. 経営管理体制

□経営執行体制

当JAは農業者により組織された協同組合であり、正組合員の代表者で構成される「総代会」の決定事項を踏まえ、総代会において選任された理事により構成される「理事会」が業務執行を行っています。また、総代会において選任された監事が理事会の決定や理事の業務執行全般の監査を行っています。

信用事業については専任担当の理事を置くとともに、農業協同組合法第30条に規定する常勤監事及び員外監事を設置し、ガバナンスの強化を図っています。

3. 事業の概況

平成 29 年度は、組合員及び地域の皆さまから信頼される「身近で親しまれるJA」をキャッチフレーズに、「組合員・地域住民との関係強化」「地域農業の振興」「経営基盤の強化」を基本方針として事業活動を展開してまいりました。

営農指導においては、「第二次JA福山市地域農業ビジョン」に基づき、作物別の新規栽培講習会や農業塾などを開催し、ハウレンソウ、クワイ、ぶどう、トマト、アスパラガスなどの産地において、新たな担い手を育成しました。また、農畜産物の品質向上に努めるとともに、学校給食への食材供給や「ふくやまブランド農産物」の生産拡大を図るなど、食農教育、地産地消運動に取り組む、地域農業の振興に努めました。

経営面では、平成 31 年度からの公認会計士監査に備え、総合的なリスク管理態勢、コンプライアンス(法令等遵守)態勢、内部統制態勢の充実・強化を図り、皆さまから安心してご利用いただける体制整備に取り組みました。

この結果、主要な事業は概ね順調に推移し、事業利益が 13 億 7 千万円となったほか、経常利益は 18 億 5 千万円となり、当期剰余金は 12 億 3 千万円を計上することができました。

また、金融機関の経営の健全性を示す自己資本比率については 15.55%となりJAバンクが定める基準 8%を上回ることができました。

主な事業活動と成果については、以下のとおりです。

①指導事業

<営農指導>

平成 28 年に策定した「第二次JA福山市地域農業ビジョン」に基づいて、地域農業の担い手育成と支援、農業者の所得増大と農業生産の拡大、食の安全・安心確保に取り組む、持続可能な地域農業の実現に努めました。また、JA福山市農業振興支援事業を活用し、担い手を中心に機械化や施設化に対する支援